

筑波学院大で難民映画祭

20日 討論会やダンス披露

難民問題を多くの人に知ってほしいと、筑波学院大学（つくば市吾妻）で20日、難民映画祭が開催される。授業などで難民問題を学んだ3年の須藤愛里沙さん（20）ら学生7人が自主企画した。映画上映、トークセッションのほか、学生が制作したプロジェクションマッピングの映像を投影しながら、ダンスのパフォーマンスを披露する。

ダンスは、イラクの

難民キャンプで実際に使われたテントの布地で作った衣装を着用し、差別や戦争を無くしたいという願いを込めて、同大ダンスサークルのメンバーが中東の伝統舞踏、スーフィー

ーダンスを踊る。須藤さんらは授業の一環で、イラク難民の医療支援に取り組むNPO日本イラク医療支援ネットワークの佐藤真紀事務局長の話や、難民問題を扱った映画を鑑賞し、自

分たちができることをやりたいと企画した。

同大の武田直樹・社

会力コーディネーター

が、海外でボランティア

活動を経験したこと

が縁という。佐藤事務

局長から、イラク北部

クルド自治区の難民キ

ャンプで廃棄処分とな

ったテント布地製のイ

ラク民族衣装を用い

て、日本で何かできな

いかと持ち掛けられた

のがきっかけ。

同大が、国連難民高

等弁務官駐日事務所が

毎年開催している難民

映画祭の学校パートナー

ズとなり、難民問題

をテーマにした映画

「国境に生きる」難民

キャンプの小さな監督

たち」の上映と併せて、

ダンスパフォーマンス

を披露する。

放映するプロジェク

ションマッピングはコ

マ撮りしたアニメの動画で、戦争の混沌（こんどん）を並和と明るく未来に変えることがテーマ。構内の中庭に縦横8メートルの大き

さで3階から投影する。

プロジェクションマ

ッピングを制作した4

年の市川龍也さん（22

）は「難民問題は難しい

話だと敬遠されがち

で、自分自身もよく分

からなかったが、映画

とパフォーマンスを通

して難民問題を知ろう

というきっかけにして

もらえれば」と話して

いる。（鈴木宏子）

◆上映時間は20日午前10時から午後3時からの2回。ダンスパフォーマンスは午後5時10分から。参加無料。問い合わせは029・863・3456（同大・武田さん）。



難民映画祭を企画した筑波学院大の学生ら＝つくば市吾妻の同大